



ぐるみ通信

<http://www.city.iida.lg.jp/site/kankyouseisakujuhou/isokenkyukai.html>

2015.3.31

「今がビジネスチャンス」 シンポジウム開催

去る2月2日、ISO 14001 自己適合宣言(2003年1月23日)及び環境モデル都市認定(2009年1月23日)を記念したシンポジウムが、真新しい市役所の新庁舎において開催されました。今年「気候変動の動向と影響について～急速に進む地球温暖化に対し、私たちはどう行動すべきか～」と題して講演・議論が行われました。



まず、慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授(元環境省事務次官)より、「地球温暖化の異変と私たちの暮らし」と題してご講演をいただき、小林氏から、「世界の平均気温は、21世紀末にはどんなに対策をしても年平均気温が2度上がってしまう(対策をしないと最大4.8度上昇)。また、CO₂濃度は、自然界が6,000年掛けて100ppm上昇するところを、ここ100年間で100ppm上昇しており、かつて経験したことのない領域に入ろうとしている。引き続き温暖化対策を進めていくことは必要だが、否応なしに進んでしまう温暖化に対してはあらかじめ適応することも必要となる。生命が脅かされる今、何かをしなければならぬという時が来ている。低炭素化を進めようとしている今が、大きなビジネスチャンス。環境で稼いで何が悪い、環境でこそ稼ごうというつもりで頑張っていたきたい。」とお話がありました。

また、パネルディスカッションでは、飯田市エコライフコーディネーターの絹代さんがコーディネーターを、小林氏、牧野飯田市長がパネリストとして参加し、議論が展開されました。小林氏からは、「どんなこともでもエコビジネスが出来る。それを進めていく上で大切なことは、第一に単に環境だけの



価値を売るのではなくて環境が良くなると、健康になるとか、費用を安くできるなどといった環境に配慮することで付随してくるプラスの付加価値を売っていくこと。二つ目に、いろいろな人が参加できるストーリーを作り、買う側にも居場所があるようにするという作り込みが重要。三つめに、一度にはよくなる、だんだん良くなる。お客さんと売の側が一緒に育ってだんだんに良くなっていくのが勝ちパターンである」とお話を頂きました。

さらに、「飯田市のような基礎自治体は、いろいろなことが取り組めるのでとても恵まれている。縦割りにならず、横のつながりを密に」とのお話があり、絹代さんからは、「飯田市は、他市町村に比べ市役所内の組織間の横の敷居が低く、ごく当たり前に横の調整が出来ている」とご評価を頂きました。



牧野市長からは、「環境のことだけを考えていけばよいというものではない。コベネフィットを考え、環境からいろんなことを結び付けて考えていくことが大切。再生可能エネルギーの導入を進めるにしても、地域の経済、暮らしまで含めて考えていくことが重要。そのように横軸でとらえて生まれたものが飯田市の「地域環境権条例」であると発言がありました。

小林氏からは、「外からの力を使っていくことが大事。外からの人達にも開かれていて、違った考え方の人達と議論が出来るのが飯田市の特色であるのでそれを生かしていくとよい。今チャレンジングなことをしているというだけでなく、それが飯田の文化・DNA

であるとして外に向けて挑発しながらいろいろなことをやっていくとよいのでは。いろいろな人に参加してもらい、お互いに育っていくような仕掛け作りが大切。」とアドバイスを頂きました。

実務者会 & 市役所新庁舎 見学会を開催しました

去る1月28日、飯田市役所にて実務者会を開催し、23名が参加しました。

研究会の実務者も入れ替わりが多いことから、南信州いいむす21の運用について再確認をしました。ISOのサーベイランスや更新審査はコンサルティングしないことが原則ですが、南信州いいむす21の訪問支援は、取組事業所の話や悩みを聞き、活動を後押しすることが目的であるため、なるべく事業所にアドバイスをするスタンスで実施していくことを確認しました。

終了後は、県産材を随所に使用し、災害時の危機管理機能を充実させた新庁舎を見学しました。市役所の環境モデル都市推進課・環境課は、今年12月末に耐震化工事を終える予定の旧本庁舎1階に引っ越します。

ムトス飯田賞受賞!

2月15日に開催された第30回ムトス飯田賞表彰式において、地域ぐるみ環境ISO研究会が、地域づくりの功績が称えられ、ムトス飯田賞(特別賞)を受賞し、萩本代表が表彰状と活動奨励金10万円、今後の活動のためのムトスパワーアップ支援金として最高10万円の支援金(目録)を受け取りました。今後の研究会活動のために有意義に活用して参ります。



【ご意見・お問い合わせ・配信解除】
地域ぐるみ環境ISO研究会事務局
沢柳 俊之(多摩川精機)
村下、増田(飯田市役所)
ic2568@city.iida.nagano.jp



研究会事業所代表者全体会 1997年発足から20年に



「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」の事業所代表者全体会が4月19日(火)に飯田市役所で開かれました。代表者全体会は組織する事業所の代表者をもって組織される研究会の最高の意志決定機関。今回は27年11月5日(木)、1年に2回程度招集されることになっています。



冒頭 萩本範文研究会代表の挨拶。九州熊本、地球の反対側の南米で相次いで発生した大地震、地球が少し柔らかくなってきているように感じる。これも広い意味では環境問題であることには間違いはない。

環境問題は地球にとってますます重要なテーマになってきている。中央構造線上に位置するこの地域も地球全体の中で九州からのひとつの線上にあることを考える必要がある。

地域ぐるみ環境 ISO 研究会は来年で発足20年目を迎える。この研究会のそもそもの目的はCO2削減により環境を維持できないかということであった。研究会が誕生した1997年は、京都でCOP3が開催され、トヨタ自動車からプリウスが発売された転換の年でもある。

トヨタ自動車の次のステップはCO2削減ではなく、2050年に排ガスゼロのクルマの開発、排ガスゼロの社会を作るといった大きな目標。

当研究会の取り組みは草の根の小さな運動だが大きな試練を迎えている地球環境の改善に向け何かしらの発信ができればと願う...



「南信州 いむす21」支援 広く呼びかけた一斉行動も

研究会に参加する事業所は現在、28事業所。全体会で事業所代表者・実務者の交替の報告がありました。取り組み継続に大きな影響の出る交替、研究会設立時の「思い」、参加しようと思った「思い」を引き継ぐことは難しいことです。参加事業所として研究会全体として「思い」を共有していかなければなりません。

経過報告に続いて、それぞれの取り組みについて報告がありました。温室効果ガス削減プロジェクト、地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす21」の現状、「南信州 いむす21」の訪問支援、2016年2月冬の一斉行動週間。

は、登録証を発行する南信州広域連合事務局から。「南信州 いむす21」の認証登録事業所は全60事業所。ISO 14001 南信州宣言が3、上級8、中級15、初級34。事業縮小などの理由により登録後に辞退した事業所も4あり、改めて取り巻く経営環境の厳しさを感じました。



は、昨年10~11月に研究会の7班が「南信州 いむす21」の取り組み事業所21事業所を訪問支援したものの、担当した事務局の計画や集約に余裕がなく課題も残りました。

支援の内容も経営層や担当者に異動があっても継続できるもの、動機づけとなるもの、上位級へのステップアップにつながるものが求められます。しかし支援する側される側双方にとって過度の負担とならない効果的な支援も大事。研究会が関わり運用から15年が経過し、地域に定着してきた「南信州 いむす21」。地域の環境改善に役立つ取り組みが期待されます。

は、研究会以外の事業所にも呼びかけて、今年2月の1週間に61事業所、6千人を超える社員が取り組んだ家庭や通勤の一斉行動。ノーマイカーが8,396回、削減されたCO2推計値は18.6tと大きい...

萩本研究会代表者が交替 今秋の20周年記念イベントで

事業所代表者全体会に先だって「研究会発起人代表者会」が開かれました。この会議で承認され全体会へ報告されたのが「研究会の今後の体制・活動」です。研究会の発足から今日まで代表として研究会でリーダーシップを発揮し、地域の「環境力」を高めた萩本範文代表(多摩川精機株副会長)。多摩川精機株の関重夫社長が後任の研究会代表になること、交替時期は、今秋予定されている研究会の20周年記念イベントの後とすることが確認されました。



20年という時間を経て、大きなひとつの流れが終わりを告げる。そんな節目を迎えることになりました。最後のまよめの挨拶で牧野飯田市長から萩本代表には顧問として研究会に残り、アドバイスをいただけるよう提案がありました。会場に大きな拍手が起こりました。

「南信州 いむす21」上級の更新審査を事業所に出向いて行いました。経営層によるごみ集積所の掃除など主体的な関わりに関心しました。本業の中で環境改善の取り組みがしっかり位置づけられていました。

しかし、せっかくのその取り組みが外に向かって情報発信できていないことが残念でした。もっと自分たちの取り組みに自信と誇りを持てるようシステムを支える研究会としても考える必要があるはずだ。



長い時間を経て、再び、研究会事務局として、この「ぐるみ通信」に関わることになりました。実務者に飯田工業高校のあの体育館での「南信州 いむす21」キックオフにいた人がいました。研究会の歴史を感じ感動を覚えました。「ぐるみ通信」で研究会の今、伝えます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林梅姫(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



地域ぐるみ環境 ISO 研究会 1997年からの活動履歴



「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」の事業所代表者全体会(4月19日)の資料に研究会の活動履歴がありました。1997年の設立から今年20年目に入る活動が整理されています。

333は研究会「20年の歩み」をコンパクトに確認できるものになりました。やはり、文字が多くなってしまったこと、先ず、お詫びします。

1997年「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」(会員6事業所:多摩川精機・オムロン飯田・平和時計・三菱電機・旭松食品・市役所)/9月:エコタウン事業の会で研究会設立の提案/11月:研究会設置の決定/12月:オムロン飯田にて第1回研究会を6事業所で開催 COP3京都会議ブラス販売開始

1998年 情報交換会・事業所見学会を実施

1999年 組織体制の見直し(活動理念、活動内容の設定)/飯田版簡易ISO試行/エコマネー導入の提案/生活と環境まつり1999出展/事業所見学会(2か所)

2000年「地域ぐるみ環境ISO研究会」(会員23事業所)/組織体制の整備(組織名称変更、代表者・事務局の設置)、会則の設定/分科会活動を開始/I SO実践塾の開催/生活と環境まつり2000出展/事業所見学会(2か所) 長野県環境保全協会:信州エコ大賞

2001年 メール情報「ぐるみ通信」創刊/地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」スタート/相互内部監査スタート/信州環境フェア2001出展/生活と環境まつり2001出展/事業所見学会(2か所)

長野県循環型社会形成推進協議会:リサイクル推進認定証 リサイクル推進協議会:会長賞 中部の未来創造大賞推進協議会:優秀賞

2002年「南信州いむす21」4事業所に第1号認証/信州環境フェア2002出展/生活と環境まつり2002出展(どんぐり登場)/カレンダー手帳のプレゼント会参加/事業所見学会(6か所)/日本計画行政学会:計画賞(最優秀賞)

2003年 環境関連法令セミナー開催/信州環境フェア2003出展/生活と環境まつり2003出展/事業所見学会(2か所) 環境省:地球温暖化防止活動環境大臣賞(対策活動実施部門) 飯田市役所 ISO 14001審査登録から自己適合宣言へ移行

2004年 環境自治体会議いいた会議 分科会開催/I SO 14001規格改訂研修会開催(43人参加)/信州環境フェア2004出展/生活と環境まつり2004出展/事業所見学会(2か所) フサナケイグループ:地球環境大賞(環境市民グループ賞) 日本環境経営大賞:環境フロンティア部門地域交流賞 持続可能な社会をつくる元気ネット:元気大賞特別賞 ISO 14001:2004改訂

2005年 京都議定書発効記念イベント(28事業所、5,372人参加)/ノーマイカー通勤推進月間(38事業所、1,426人参加)/里山保全活動開始/信州環境フェア2005出展/生活と環境まつり2005出展/事業所見学会(3か所)/飯田地球温暖化対策地域協議会に入会 「南信州いむす21」が「環境白書」で紹介される

2006年 グレードアップ版「南信州いむす21」施行/「南信州宣言」誕生(三六組)/「環境に役立つ監査」セミナー(42人参加)/京都議定書発効記念イベント(ウェブアンケート607人参加)/エコドライブ推進月間(5月:98事業所、6,193人参加)(10月:106事業所、9,193人)/生活と環境まつり2006出展/「経営に役立つ環境監査」セミナー/事業所見学会(2か所) あしたのまち・くらしづくり活動賞:振興奨励賞

2007年 組織体制の整備(副代表者選出)/悩み事相談会開催/地域ぐるみ環境講座スタート(下伊那農業高校)/内部環境監査員養成セミナー(35人受講)/京都議定書発効記念イベント(59事業所、5,636人参加)/環境の日一斉行動週間(74事業所、延13,485人参加)/エコドライブ推進月間(73事業所、延54,732人参加)/生活と環境まつり2007出展/内部環境監査員養成セミナー/事業所見学会(3か所) 長野県地球温暖化防止活動推進センター:信州減CO₂コンテスト最優秀賞

2008年 京都議定書発効記念イベント(96事業所、9,222人参加)/ストップ温暖化大作戦「一村一品知恵の環づくり」全国大会出場/10周年記念イベント開催/環境の日一斉行動週間(106事業所、延45,685人参加)/エコドライブ推進月間/生活と環境まつり2008出展/内部環境監査員養成セミナー/「南信州いむす21」が長野県の建設工事入札参加資格審査の野客観点数に加点される/事業所見学会(2か所)/南信州レジ袋削減

協議会に入会/温室効果ガス排出量把握スタート リーマンショック

2009年 京都議定書発効記念イベント開催(109事業所、9,702人参加)/環境の日一斉行動週間(エコキヤップ)/南信州地域交通問題協議会に入会 飯田市が「環境モブ都市」に

2010年 温室効果ガス削減(いらいこすい)だプロジェクトチームキックオフ/飯田市役所が電気自動車「i-ミー」の貸し出し開始/環境の日一斉行動週間/内部環境監査員養成セミナー開催/グリーンコンシューマー講座開催/事業所見学会(1か所)

2011年 「省エネレギ」活動取り組み宣言採択/I SO 50001セミナー/省エネ一斉行動週間(45事業所、延5,128人参加)/秋のCO₂削減一斉行動週間(57事業所、延8,529人)/運営規則の改正/事業所見学会(2か所) 「環境首都コンテスト」最終年「明日の環境首都」 東日本大震災

2012年 「南信州いむす21」プロジェクトチームキックオフ/環境の日一斉行動週間(66事業所参加、CO₂:1,236t/年削減)/省エネ一斉行動週間/事業所見学会(2か所)

2013年 いらいこすいだプロジェクトによる省エネ診断スタート/改訂版「南信州いむす21」説明会実施/冬の一斉行動週間(66事業所参加、CO₂:1,505t/年削減)/夏の一斉行動週間(58事業所参加、CO₂:1,033t/年削減)/環境側面セミナー開催

2014年 建設部門情報交換会/冬の一斉行動週間(55事業所参加、CO₂:878t/年削減)/夏の一斉行動週間(59事業所参加、CO₂:1,058t/年削減)

2015年 冬の一斉行動週間(56事業所参加、CO₂:825t/年削減)/秋の一斉行動週間(57事業所参加、CO₂:906t/年削減) ムトス飯田賞:特別賞 ISO 14001:2015改訂

2016年 ISO 14001:2015年版対応マニュアル作成研修会(40人参加)/冬の一斉行動週間(61事業所参加、CO₂:965t/年削減) 熊本地震



今回「333」はやはり昭和33年開業高さ333mの東京タワー。いまや634m東京スカイツリー?「研究会20年」の活動は「地域文化」になったでしょうか。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

小林梅如(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



独自の「南信州いいむす21」 E(い)I(い)M(む)S(す)を21世紀に



私たちの暮らす南信州地域には地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」があります。EMS (Environmental Management System) をE(い)I(い)M(む)S(す)「いいむす」と名付けて、南信州地域で21世紀に展開していこうというものです。2001年10月から運用を開始し、登録・更新審査、運用支援を「地域ぐるみ環境ISO研究会」が担い、窓口、登録証発行を市町村で構成する南信州広域連合が担う制度です。

国際規格 ISO 14001 のシステムを基本として、その事業所の取り組みに応じた初級・中級・上級・ISO 14001 南信州宣言の4つのレベルがありステップアップできる仕組みです。要求事項(チェック項目)は初級で34・中級で57・上級で80・ISO 14001 南信州宣言で115となっています。

特に ISO 14001 南信州宣言は、ISO 14001 審査登録から様々な理由により外れる場合の受け皿として取り組みレベルを維持し、事業所の本来業務に即した活動へと展開しています。



このたび早稲田大学大学院の松岡教授の研究グループが「環境イノベーションの社会的受容性と持続可能な都市の形成に関する研究」というプロジェクトで当研究会と「南信州いいむす21」の調査・検証を進めてくれます。その組織や活動の内には「当たり前」として気づかないことを新鮮な「外の目」で見られる。今年20周年に入ろうとする研究会にとっても「20年」ゆえの課題もあり自らを見直すいい機会と考えます。

5月18日19日に行われた飯田での調査の様子を報告します。調査に協力していただいた方々に感謝して...



地域ぐるみ環境 ISO 研究会 「南信州いいむす21」の調査検証

皆さん、お忙しい中、日程調整に協力していただき、もの凄く濃い調査スケジュールで進めました。両日とも天候に恵まれて、調査に来飯された中村さん、竹川さんに南信州の素晴らしい景色も堪能していただくことができました。名水百選の猿庫(さるくら)の泉など「食」も味わっていただきました。きれいに掃き清められた源泉近く、飲み場には可憐な花が添えられ...

しかし二人が一番感動したのは、景色でも食でもなく調査に協力・対応してくれた「人」の素晴らしさだったとのこと。嬉しいですね。



今回のヒヤリングは9件について行われました。研究会の事務局多摩川精機(株) 研究会発起人の6事業所 研究会事務局会議が初日。2日目は、研究会代表の多摩川精機(株)萩本副会長「南信州いいむす21」初級登録34事業所のうち(株)タニガワ 中級登録15事業所のうち(株)丸宝計器 広域連合事務局 上級登録の8事業所のうち綿藤トキワフーズ 最高レベルの ISO 14001 南信州宣言3事業所のうち(株)三六組、でした。限られた短い時間でしたが、その事業所へ実際に出向いて聞いてみたいと理解できないことも多く貴重な時間でした。

今後、他地域の独自のシステムとの比較研究を行い、検証結果は研究会の20周年のイベントでフィードバックされる予定です。楽しみです。

一市民、一事業所の取組みでなく 地域全体の取組み 環境問題は



研究会萩本代表からは研究会の誕生秘話ともいえる当時の貴重な資料に基づき話を聞くことができました。予定の時間を延長しての話は迫力さを感じました。研究会の理念は設立当時から一貫していることを確認しました。「環境問題は一市民、一事業所の取組みでなく、地域全体の取組みとするところに意味がある。「地域ぐるみ」というキーワードが相応しい運動である」と。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機(株)) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「南信州いいむす21」

2事業所に登録証の交付

6月、環境月間が始まりました。5月末には地元紙にも環境月間・環境の日の特集が組まれて、その広告欄に「地域ぐるみ環境ISO研究会」の参加企業や地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の取り組み事業所が並んでいました。頼もしいですね。



南信州いいむす21

中には「南信州いいむす21」のマークが表示されている事業所もありました。2003年9月11日に定められたこのマークは Environmental Management System:「EMS」、環境マネジメントシステムを表しています。赤の「E」は太陽を、緑の「M」は山そして南信州のMを、青の「S」は川・水をそれぞれ表しています。E(い)M(む)S(す)「いいむす」です。



環境月間の始まる前日、5月31日には「南信州いいむす21」の登録証交付式がありました。この事務局は、広域連合事務局です。広域連合長を務めるのは飯田市長で、交付式の会場は飯田市役所の市長室でした。

開式、事務局から事業所の紹介、登録証の交付、広域連合長からの挨拶、そして、登録事業所の中から代表者が挨拶し、閉式となります。

今回の交付は2事業所。勝間田建設(株)は中級から上級を通さずISO 14001南信州宣言へとステップアップ。工事の際の周辺井戸水調査、環境教育訓練が評価されました。シルクホテル中田製糸(株)は上級を更新。食品ロスの減少や廃棄物の削減など全体の意思疎通が評価。

建設工事の入札において

「南信州いいむす21」が加点評価

「南信州いいむす21」のISO 14001南信州宣言の登録事業所はこれで4事業所となりました。うち3事業所が建設業です。長野県や飯田市の建設工事の入札において環境マネジメントシステムへの取り組みが「経営意欲」として加点評価されています。長野県では「南信州いいむす21」以外に「ながのエコサークル」「塩尻環境スタンダード」も対象となっています。飯田市では「南信州いいむす21」の初級・中級・上級・ISO 14001南信州宣言、4つの取り組みレベルに応じた評価です。研究会ホームページにこの資料を追加しましたので、ご覧ください。

こうした評価は環境改善に取り組む事業所にとって大きなインセンティブになっていることでしょう。また、「南信州いいむす21」登録証交付式の様子は地元紙で紹介されたのも大きな励みになっているのではないのでしょうか。地域独自の環境マネジメントシステムゆえの記事であり、審査機関によるISO 14001認証登録がいまや地元紙の話題になることはあり得ないでしょうから。



「南信州いいむす21」初級の更新審査に研究会メンバー2事業所で訪問しました。訪問し取り組みを確認すると常々感じるのですが登録されている初級・中級・上級・ISO 14001南信州宣言のレベルは、決して取り組みレベルではないということ。ISO 14001南信州宣言は別格としても、初級だから程度が低く上級だから取り組みが進んでいるという単純なものではないということです。果たして自分たちの取り組みがどのレベルにあるのかなかなか自分では評価できるものではありません。「これだけ徹底した取り組みなら上のレベルへ進んではいかかでしょうか」「いやいや、まだまだ、もっと従業員に浸透したものにしないと」厳しい自己評価。

嬉しいのは南信州いいむす21に取り組んで事業所の環境に対する意識が確実に変わりました。ですね。

それぞれの思いの違い

ひとつの方向につながれば

「地域ぐるみ環境ISO研究会」としても環境月間に何かできないか。環境月間は毎年6月とはいえ急な思いつきでできることは限られています。「緑のカーテン」を楽しめるよう、アサガオの種をプレゼントしてみよう。オリジナルの小さな袋を作り昨年取り組んだ緑のカーテンで採取したアサガオの種を入れました。

環境の取り組みが強制ではできずいかに楽しめるかがカギと考えています。研究会メンバーの中でも取り組めるところが取り組めばいい。「考えるみらいのため地球のため」緑のカーテン、「楽しみましょう」。



飯田市役所本庁に2つある総合案内のカウンターにも種を置いてみました。戸籍や住民票の市民課、税、保健福祉など窓口が多い方の総合案内より市民サロン手前にある市民の行き来が多くない方が袋の減りが早いという不思議な状況が続いています。原因はいろいろ何。



仕掛ける側と仕掛けられる側、そこには思いの違いがあるものです。「南信州いいむす21」の取り組みも同様なのかも知れませんが、取り組む事業所と支援・審査する研究会、それぞれの思いが新しい環境改善の地域文化の創造につながればと。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

小林海姫(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「板橋エコアクション」調査 事務局と取り組み事業所

板橋区で展開しているのが地域独自の環境マネジメントシステム「板橋エコアクション」です。板橋区の資源環境部環境戦略担当課の環境政策グループがその事務局を担っています。ホームページでもそのシステムの概要などは明らかになっていますが、その実態のヒヤリングに6月15日・16日の両日、板橋区を訪れました。比較することによりこの地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の取り組みを検証するのが目的でした。

最初に事務局の環境政策グループから制度についてヒヤリングさせていただきました。事務局には訪問先との調整やまた同行していただくなど大変お世話になりました。

「板橋エコアクション」も私たちの「南信州いいむす21」と同様、地域独自の環境マネジメントシステムといながらも ISO 14001 を基本としています。しかし、板橋区は制度支援の主体が行政であるのに対し、私たちは民間主体のボランティアな「地域ぐるみ環境ISO研究会」によるといった大きな違いがあります。

また、私たちのボランティア故の支援やPRに限界があるのに対し板橋では業界の会合等で積極的にPRして開始時点で細かい支援をしている点も大きく異なる点です。

そして板橋区は用意された帳票へのデータ入力による見える化が徹底していたり、「強化シート」という任意の取り組み支援ツールが充実しており実際の行動を重視・特化した割り切ったシステムであるとの感じを強く受けてきました。

さらには「審査・登録」といった要素が弱く(とちよりこだわらず)、毎年「エコレポート」を提出することにより事務局が達成状況を確認し必要に応じてメールで指導して「活動確認書」が交付されています。

システムのレベルもABCの3段階ありますが特に上位レベルへの誘導はなく省エネ機器の導入補助金の上限増額や入札での加点など優遇措置における差もありません。こだわらぬ太っ腹といえる制度です。

板橋区といえばグリーンカーテン。立派な区役所の建物には一体何階から何階までがつながっているのかも分からないほど圧巻のネットが張られていました。最盛期の状況を見てみると、爽やかな風が吹く屋上緑化の空間も癒されます。

しっかりした「企業経営」 それがあっての環境の取り組み



会社へ訪問しヒヤリングさせていただいたのは2社、取組レベルAの株式会社 大治(だいじはる)と取組レベルCの池松空調工業株式会社です。現場の生の声から実際の運用について学ぶことの大切さを痛感しました。環境の取り組みは企業活動の一部でしかありませんが環境の取り組みだけが立派という企業など決してあり得ないでしょう。

素晴らしい経営者の皆さんから和やかな雰囲気の中で話を聞くことができました。環境の取り組みはしっかりした「企業経営」があってこそだと改めて知らされました。そして組織の規模ではないということも。

取り組みを始める時に「読めばわかるでしょう」ではなく「分からなければいつでも聞いてください」という事務局に助けられたそう...



運用制度のPRを革新を 取り組み事業所・事務局双方で

「板橋エコアクション」この制度を知ったのは環境部門からではなく産業振興からだ、PRの難しさはどの制度でも同じことです。以前、交換した名刺に「南信州いいむす21」のマークがあり担当者として驚き、感激したことがあります。

取り組み事業所と事務局の双方でPRできるとしたら理想ですね。企業のイメージアップとしても活用できる地域ブランドとして定着し、地域で認められるようになりたいものですね。広がり?と深まり?。

環境の取り組みはやって当たり前、入札での優遇措置はプラスと捉えていない、マイナスにならない一斉のスタートラインに過ぎない。優遇措置は取り組み開始の大きなインセンティブですがそればかりではないのですね。取り組みの数が頭打ちになっているとしたら、突き抜けるための「革新」が必要なのだと。それは取り組み事業所でも事務局でも必要なのだと。納得!

「南信州いいむす21」の今後の検証において「板橋エコアクション」大きな「ヒント」になりそうです。



「南信州いいむす21」にに取り組む事業所を訪問しました。その目標は「平凡なもの」「らしくないもの」に感じてしまいました。その目標からその事業所をイメージできません。全社での推進体制があり、さらにアイデア検討グループがありました。しかし「本業」を行いながら、その目標に対するアイデアが出てくるものではないように感じました。

「南信州いいむす21」はそもそも何をめざすのか。もちろん帳票や仕組みも大事です。と同時にその「事業所らしい」、「楽しい」という要素も必要ではと強く感じました。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



ISO 14001 規格改訂 地域全体で対応・準備を

「環境マネジメントシステム - 要求事項及び利用の手引」、ISO規格 ISO 14001 が 2015 年 9 月 15 日に改訂され、それに対応する JIS規格 JIS Q 14001 が 2015 年 11 月 20 日に改正されました。品質との両立性の向上をめざす今回の改訂、慣れ親しんだ章立ても変わって、新しい考え方・用語も増え、戸惑いもあります。運用するそれぞれの組織で準備・対応していることでしょうが、どのくらい進んでいるか実態はなかなか見えてきません。

バイブルのような解説書を基に研修を組み立て、研修資料を作成していますが、担当者としてさて、だれに、どのタイミングで、どれだけ伝えていくかとも悩むところです。

重要な変更点として「戦略的な環境マネジメントへ」はじめ次の 10 点が挙げられています。規格の改訂とこの機会をとらえ組織を業務をどのように変えていくか。

ISO 14001:2015 の重要な変更点

- 1 戦略的な環境マネジメントへ
- 2 プロセスの概念の導入
- 3 事業プロセスへの統合
- 4 経営者のリーダーシップ・責任の強化
- 5 対処すべき環境課題の拡大
- 6 環境パフォーマンスの重視
- 7 順守義務のマネジメントの強化
- 8 ライフサイクル思考に基づく取組み
- 9 コミュニケーションの戦略的計画と実施
- 10 文書・記録などの電子化の促進

日本規格協会「ISO 14001:2015 要求事項の解説」

私たちの地域にも地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす21」があり、ISO 14001を基本としています。そして私たち「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」がその運用に大きく関わっています。

研究会参加事業所は運用している自分の組織のシステム改善も大変ですが「南信州 いむす21」への対応も急務。それぞれが発表し合っこの地域全体での規格改訂への対応・準備を確認し合うイベントを 8 月 23 日に開きます。ご参加を。

南信州地域における環境ISOの展開と方向性
～ISO14001:2015規格改訂への対応・準備を南信州地域全体で～

- 1 日時: 8月23日(火) 17:30～19:00
- 2 場所: 飯田市役所C棟3階 C311～C313
- 3 内容: 南信州地域における環境ISOの展開と方向性
 - ① ISO14001:2015規格改訂とは
 - ② 飯田市役所ISO14001自己適合宣言の検証と方向性
 - ③ 地域ぐるみ環境ISO研究会参加事業所の対応・準備
 - ④ 「南信州 いむす21南信州宣言」事業所の対応・準備
 - ⑤ それぞれに期待するもの

「燃費試験における行為」 品質・環境 対応の違い

我が家の愛車、燃費優等生君がリコール対象で、お詫びとお願いの簡素な通知が届きました。「内容」は、「燃料蒸発ガス排出抑制装置において、蒸発ガス通路(樹脂製)の端部形状が不適切なため、使用過程で当該端部に亀裂が発生することがあります。そのため、長期間使用を続けると亀裂が貫通し、満タン時に燃料が漏れて、燃料臭がするおそれがあります。」とのこと。「修理内容」は、「全車両、燃料蒸発ガス排出抑制装置を対策品と交換します。」素人の私には何が不具合かまったくわかりませんが今や電子機器のような自動車、「あ、そうなんですか」と反応するしかなく、対応の苦勞を感じます。

「大きな社会問題」にもなっている自動車メーカーの「車両燃費試験における不正行為」。その認証取得組織への品質 ISO と環境 ISO の認証機関の対応の違いについて、とても不可解に感じています。

品質 ISO 認証機関は、自動車メーカーによる発表を受け、同社に対する ISO 9001 認証を、翌日付で一時停止することを決定しました。「この決定は、同社による発表内容が、認証機関に対する要求事項である ISO/IEC17021-1:2015 が定める「深刻な不適合」に相当するとの、弊社の判断によるものです。」との説明でした。そして「公益財団法人日本適合性認定協会(JAB)の公表する「組織不祥事への認定・認証機関の対応について(組織不祥事対応検討会 報告書)」の提示内容に基づき特別審査を実施し、審査結果次第で当該企業に対する取り消しを行う場合もあります。」と。

一方、環境 ISO の認証機関は、「この件につきまして、事実関係を調査しましたが、環境マネジメントシステム上の不適合と特定できる事実は確認されておりません。今後も本件の進捗状況により、適切に対処することとします。」としています。もちろん認証機関の方針や考え方は違うでしょうが、この対応の違いは何でしょうか。

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす 21」を審査し運用支援を行う「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」も決して他人事ではありません。その責任は大です。

研究会20周年記念事業 12月13日(火)人形劇場で



設立20周年を迎えて記念事業の企画を研究会の発起人6事業所による事務局会議で行っています。参加者の動員を伴うような派手なイベントではなく実質的な次につながるものにとしようと練っています。

4月19日に行われました研究会事業所代表者全体会でも8月頃、その内容について提案すると確認されています。研究会だけでなく「地域の皆さんにより広く理解してもらえるようなイベントにしてほしい。」との要望も出ています。

また、これまで20年間、研究会代表として、研究会の活動を、この地域を導いてきた萩本範文代表が後任の関重夫多摩川精機株社長に代表を引き継ぐことも承認されています。この代表のバトンタッチも大きな位置づけになることでしょう。

研究会20周年記念事業の日程がほぼ固まりました。12月13日(火)午後、会場は飯田人形劇場です。



18・19歳の若い有権者が新たに投票権を得て、参議院議員の通常選挙が行われています。市役所の市民サロンに設けられた期日前の投票所にも親と一緒に、友だちと一緒に投票に来たと思われる初々しい有権者を数多く見かけます。

4年制大学のない当地域、多くが故郷を一旦は離れることとなります。研究会の20周年記念事業をそんな若者へのメッセージにもしたいと、欲張った企画も考えています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tanagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



飯田 OIDE 長姫高校 研究会 20 周年記念事業でも



「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」が「地域ぐるみで ISO へ挑戦しよう研究会」として 1997 年 12 月に設立されて年末 20 周年目に入ります。12 月 13 日(火) 15:00~17:30、飯田人形劇場で行われる「設立 20 周年記念事業」の準備が進んでいます。

記念事業で重要な「役割」を担うこととなるのが「飯田 OIDE 長姫高校」です。どんな高校なのでしょう。

「飯田 OIDE 長姫(オーアイディーイーおさひめ)高校」は飯田工業高校と飯田長姫高校の統合により 2013 年 4 月に開校した高校です。県内初の総合技術高校、日本の公立高校にアルファベットが使われるのは初めてのことです。校名としては「オーアイディーイー」と読む「OIDE」は以前は「おいで」と読んでいました。

「O」Originality: 独創、「I」Imagination: 想像力、「D」Device: 工夫、「E」Effort: 努力の略語です。旧飯田工業高校にはこの精神の碑、この名のついた松がありました。

また、飯田長姫高校はというと現在の「飯田市美術博物館」が建つ飯田城(別名 長姫城)跡地に以前はありました。1954 年、第 26 回選抜高校野球大会で「小さな大投手」光澤毅を擁して全国優勝しました。

と、ここまでは Wikipedia 的な説明ですが、地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす 21」には飯田下伊那の高校 8 校のうち飯田 OIDE 長姫高校の「生徒会」が「初級」に取り組み登録されています。

2002 年 8 月、文化祭開祭式でのキックオフ、2004 年 5 月、「南信州 いむす 21」初級登録証の交付を受けた、飯田工業高校の生徒会の活動を引き継いだ形になります。

3 年間で全生徒が入れ替わってしまう高校での環境の取り組みを継続していくのは、会社と違って大変でしょう。「南信州 いむす 21」が地域内の他の高校に広がっていない理由のひとつかも知れません。

「18 歳投票率 100%」 高校生有志による挑戦

参議院議員の通常選挙、新たに 18・19 歳の若い有権者が投票権を得て、7 月 10 日に執行されました。歴史的な選挙結果とともに様々な分析が行われていますが私たちの地域では高校生による独自の取り組みが展開され注目されました。

「飯田下伊那 100 計画実行委員会」が飯田下伊那の高校生有志により 4 月下旬に結成されました。

地域や高校生同士の結び付きが強い「田舎の強み」を生かし 18 歳の投票率 100% にしようとの挑戦です。当研究会の発足時の名前は「地域ぐるみで ISO へ挑戦しよう研究会」。共通するものを感じてしまいます。

投票率を上げる活動や、投票を呼びかける活動を自ら考え計画し実行する様子が報じられました。



その挑戦の結果ともいえる飯田市内の 4 校平均の 18 歳の投票率は 84% と実行委員会が発表しました。飯田下伊那の高校は公立・私立で 8 校、飯田市内には 5 校あります。私立の飯田女子高校を除く 4 つの高校の投票率に、実行委員会が独自の調査により把握したものです。内訳は飯田高校: 93%、風越高校: 86%、下伊那農業高校: 81%、飯田 OIDE 長姫高校: 66% でした。どのように活動が影響したのか結果としての投票率に違いがあります。

総務省で発表された各都道府県ごと 4 か所ずつの投票区を抽出し算出された「選挙区」の全国の投票率は次のとおりです。18・19 歳: 45.45% (全体 54.70%)、18 歳: 51.17%、19 歳: 39.66%。

長野県全体の投票率はというと全国トップの 62.86%、飯田下伊那は 66.74%、飯田市は 63.85% でした。

環境の取り組みは、あくまでも自主的なもの。投票率の取り組みもある意味では自主的なものです。

さて、それぞれ違いの出た投票率、どう分析・評価するのでしょうか。

市役所の環境内部監査へ コミュニケーション、基本

研究会の一参加事業所でもある飯田市役所の環境内部監査が 7 月 14 日から始まり、研究会参加事業所の実務者等も相互内部監査員として内部監査に参加しています。

ISO 14001 の運用において審査機関による審査登録から自己審査・自己決定による「自己適合宣言」へ移行し、継続している飯田市役所。

組織外部の人たちの参加により運用される相互内部監査は重要な仕組みです。その運用が知らぬ間に手前味噌になっていることに気づかされることも少なくありません。

行政ですから扱う業務もデータも多岐にわたっています。オープンにできないものもありますが業務の流れは市民にとってわかりやすくなっていなければなりません。

研究会に参加する様々な業種の民間企業の目線で、そして何より市民目線での内部監査なのです。



「南信州 いむす 21」の登録証の交付式が 7 月 8 日にあり今回は初級更新の 2 つの事業所でした。(株)アム自動車学校、そして有龍光電気工業。

6 月の広域連合会議において承認されたこと更新審査における評価ポイントも事務局から報告されました。

全職員へのタブレット端末の配付、これは紙の使用量削減とともに情報共有を図るのに効果的でしょう。そして環境テーマ別の取り組みを班編成して行うことにも結果的につながることでしょう。ついつい派手な成果をすぐに求めてしまいがちです。ここは、業務と連動したじっくりとした取り組みにしたいものです。毎朝の朝礼による共有も評価されていました。顔と顔、言葉と言葉によるコミュニケーション、規模に関係なく、再確認したいものです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tanagawa-seiki.co.jp

小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



それぞれのISO 14001 改訂対応を 地域ぐるみで

地域ぐるみ環境ISO研究会設立20周年記念イベント12/13に向けて

ISO改訂対応を地域ぐるみで
～南信州地域における環境ISOの展開と方向性～

2016年
8月23日(火)
17:30～19:00

飯田市役所
C棟3階
C311～C313

地域ぐるみ環境ISO研究会代表・多摩川精機副会長
1 萩本範文 氏 ぐるみ研究会で

地域ぐるみ環境ISO研究会事務局・EMS審査員・多摩川精機
2 福岡健志 氏 規格改訂の概要

飯田市長・南信州広域連合長
3 牧野光朗 氏 「自己適合宣言」で

夏目光学 取締役営業部長
4 本田英則 氏 研究会事業所で

備三六組 取締役社長
5 長坂巨治 氏 「南信州宣言」で

環境マネジメントシステムのISO 14001規格が2015年に改訂
ISO 14001の様々な運用形態・組織ごと改訂に対応しているが
それぞれの発表から地域全体での改訂対応のあり方を学びます

「地域ぐるみ環境ISO研究会」と飯田市が主催、南信州広域連合が共催する環境ISOのイベントが8月23日(火)飯田市役所で行われます。環境マネジメントシステムISO 14001の規格が昨年2015年に改訂されました。ISO 14001の運用形態はその組織によって実に様々です。

特に地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」を持つ当地方ではその対応も様々です。それぞれがその準備対応を発表し地域全体での改訂対応のあり方や方向性を探り確認するものです。

ISO 14001の規格は適合を評価するために用いる要求事項を規定しています。そして、規格への適合について次の4つの方法による実証を規格の「序文」の中で示しています。

ISO 14001(JIS Q 14001):2015

組織は、次のいずれかの方法によって、この規格への適合を実証することができる。

- 自己決定し自己宣言する。
- 適合について、組織に対して利害関係をもつ人又はグループ、例えば顧客などによる確認を求める。
- 自己宣言について組織外部の人又はグループによる確認を求める。
- 外部機関による環境マネジメントシステムの認証・登録を求める。

「南信州宣言」を確認する 研究会としての対応も

ISO 14001の規格への適合を実証する方法として「外部機関による認証・登録」が一番多いでしょう。研究会参加事業所の多くもこれによっています。この地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の運用支援そして審査に研究会参加事業所が関わっています。研究会の発足はそもそも「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」という名で「認証・登録」への挑戦、地域へのノウハウ還元がありました。

研究会の1事業所でもある飯田市役所は、2003年1月23日に規格への適合を「認証・登録」から「自己決定し、自己宣言」に移行して今日まで維持してきました。この「自己適合宣言」、いくつかの「仕掛け」があります。研究会、研究会参加事業所との密接な連携に大きな意味があることは言うまでもありません。



「南信州いいむす21」には現在、4つの取り組みレベルがあります。その最高レベル「ISO 14001南信州宣言」は、「自己宣言について組織外部の人又はグループによる確認を求める」という方法です。その確認は「地域ぐるみ環境ISO研究会」が自分の組織の運用のノウハウにより担っているということになります。

ただ、あくまで「自己宣言」ですから、運用している組織自ら規格への適合を「自己宣言」したものを「確認」ということになります。運用している組織の責任は「自己決定し、自己宣言すること」同じかも知れません。「認証・登録」ではない「南信州いいむす21」への移行、それは、一体、どんな理由からか。規格改訂への対応・準備について、その取り組みにも期待しています。

研究会にとっては、自分の組織の改訂への対応に加え、「ISO 14001南信州宣言」を「確認」するための準備という大きな役割もあります。

研究会20周年記念事業 4つのグループで準備

「地域ぐるみ環境ISO研究会」の設立20周年の記念事業が12月13日(火)15時から、飯田人形劇場で行われます。記念事業の具体的な準備に向けて研究会参加事業所が4つのグループに分かれて、取り組みが始まることになりました。

20年の振り返り、イベント運営、エコバッグ、懇親会。20周年の記念事業そんな準備の様子も少しずつ紹介していきます。



Iida Puppet Festa
いいだ人形劇フェスタ
公式ホームページ
2016
8.2 18時
8.7 18時
みる・演じる・ささえる・わたしがつくるトライアングルステージ
Everyone Can Take Part by - Soaring, Playing or Supporting

会場は飯田文化会館に隣接する収容200人の飯田人形劇場です。

暑い夏の始まり8月2日から8月7日まで6日間、飯田市は「いいだ人形劇フェスタ2016」の真っ最中。2016年の上演劇団数は257劇団、上演数は500公演とのことです。

市役所の入り口にも劇団の人形たちが飾られ静かに演じています。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「改訂対応を 地域ぐるみで」 来週8月23日(火)です

**ISO改訂対応を
地域ぐるみで**

～南信州地域における
環境ISOの展開と方向性～

2016年
8月23日(火)
17:30～19:00

飯田市役所
C棟3階
C311～C313

環境ISOのイベントが来週の
火曜日に迫りました。8月23日(火)
夕、飯田市役所C棟で行われます。
「地域ぐるみ環境ISO研究会」萩本
代表からの「趣旨説明」から始まり
環境マネジメントシステムISO 14001、
2015年版規格改訂の概要について
研究会事務局から説明があります。

次にISO 14001を運用する3つの
組織から今回の大幅な改訂に対し
どのように対応の準備をしている
か発表があります。2003年1月
23日審査登録から自己適合宣言に
移行した飯田市役所。研究会の
参加事業所としてISO 14001の審査
登録を継続している世界に誇る
光学レンズメーカーの夏目光学(株)。

この地域独自の環境マネジメント
システム「南信州 いむす21」その
最高レベルである「ISO 14001南信州
宣言」取り組み事業所の建設会社
(株)三六組。運用形態が違う、また、
業種も異なる、それぞれの組織の
思いがきっと伝わってくるでしょう。



今回の環境ISOのイベントでは
パワーポイントを使わないことに
しています。プロジェクターにより
スクリーンへ映し出すという方法
でなく、それぞれの発表者による
工夫された説明に期待しています。

規格改訂の概要説明は20分間、
3つの組織それぞれからの発表
時間は15分間と限られています。
限られた時間で、限られた手段で
相手に伝えることは難しいもの
です。聞き手のISOの知識にもか
差があります。何を伝えたいのか、
要点を絞り伝えることになる...

「地域ぐるみ！次へ！」 研究会20周年記念事業

「地域ぐるみ環境ISO研究会」の
設立20周年の記念事業に向けて
4つのグループでの検討・準備が
始まりました。記念事業は12月
13日(火)15時から、文化会館隣り
「飯田人形劇場」で行われます。

研究会の事務局の実務者がリー
ダーを務める4つのグループは、
「20年の振り返り」、「イベント
運営」、「エコバッグ」、「慰労会」。
まだまだ先のように感じますが
あれこれ具体的な検討をすると
やるべきことが結構あるものです。

**地域ぐるみ！
次へ！**

地域ぐるみ環境ISO研究会
設立20周年記念事業

2016年
12月13日(火)
15:00～17:30

飯田
人形劇場

記念事業の長いタイトルは「地域
ぐるみ！次へ！」と決まりました。
研究会の名前である「地域ぐるみ！」
そして「次へ！」、何の「次へ」か？
多くの思いが込められています。



「20年の振り返り」は、当日、
会場で紹介する研究会の20年の
歩みの制作です。研究会の活動に
長く関わってきた実務者がメンバー。

今は行っていない懐かしい研究会
活動が話題に上がっていました。
研究会の活動を綴ってきたこの
「ぐるみ通信」も貴重な資料です。



「イベント運営」は、当日、人形
劇場でのイベントを仕切ります。
内容と時間配分、会場セッティング、
準備すべきことも多いようです。
当日、どんな劇場になるのでしょうか。

振り返り・イベント運営・ エコバッグ・慰労会で準備



「エコバッグ」グループは女性の
実務者のみのメンバーで進められて
います。この取り組みは、もう少し
シークレットにしておきましょう。
この「エコバッグ」には「環境」はもち
ろん「次へ！」の強いメッセージが
込められることになるはずです。



さて「慰労会」を担当するグル
ープ。今回の記念事業では10周年
記念事業で行った参加者の立食に
よる「懇親会」のようなものは予定
していません。あくまで、記念事業
準備に関わったスタッフの参加に
よる手作りの「慰労会」を計画して
います。しかし、どうせやるなら、
何より徹底して楽しくやろう！
いろいろな仕掛けを準備中です。



設立から20年経ち研究会を取り
巻く環境も大きく変わり、深刻な
多くの課題もある「地域ぐるみ環境
ISO研究会」。20周年の記念事業が
研究会をもう一度原点に戻って、
見直す機会にできればと願います。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

小林梅昭(飯田市役所) 研究会事務局

kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp